

ビパーク地点が迷沢と仏沢の間だったので二手にわかれて出発する。沢に入つてすぐ大きな岩が行く手をさえぎり、コケが密集成していたため、いい沢なのかと思われましたが、進んでいくうちにだんだん失望してくる。いくら行っても滝1つなく何の変化もあらわれないので。沢が小さくなつてから伐採地があり、木の枝が沢に入り込み歩きにくく、「なんという沢だ」と思いながら進む。水流がきれ後はカレ沢となりヤブこぎがはじまる。真輪山が見えたので、鉄山との鞍部を目指していく。背たけほどの巣が密集しており、ルートをはずしやすいので注意して進む。沢を離れて2時間でヤブこぎから解放され登山道に出る。そこから30分で鉄山小屋につく。

(記)

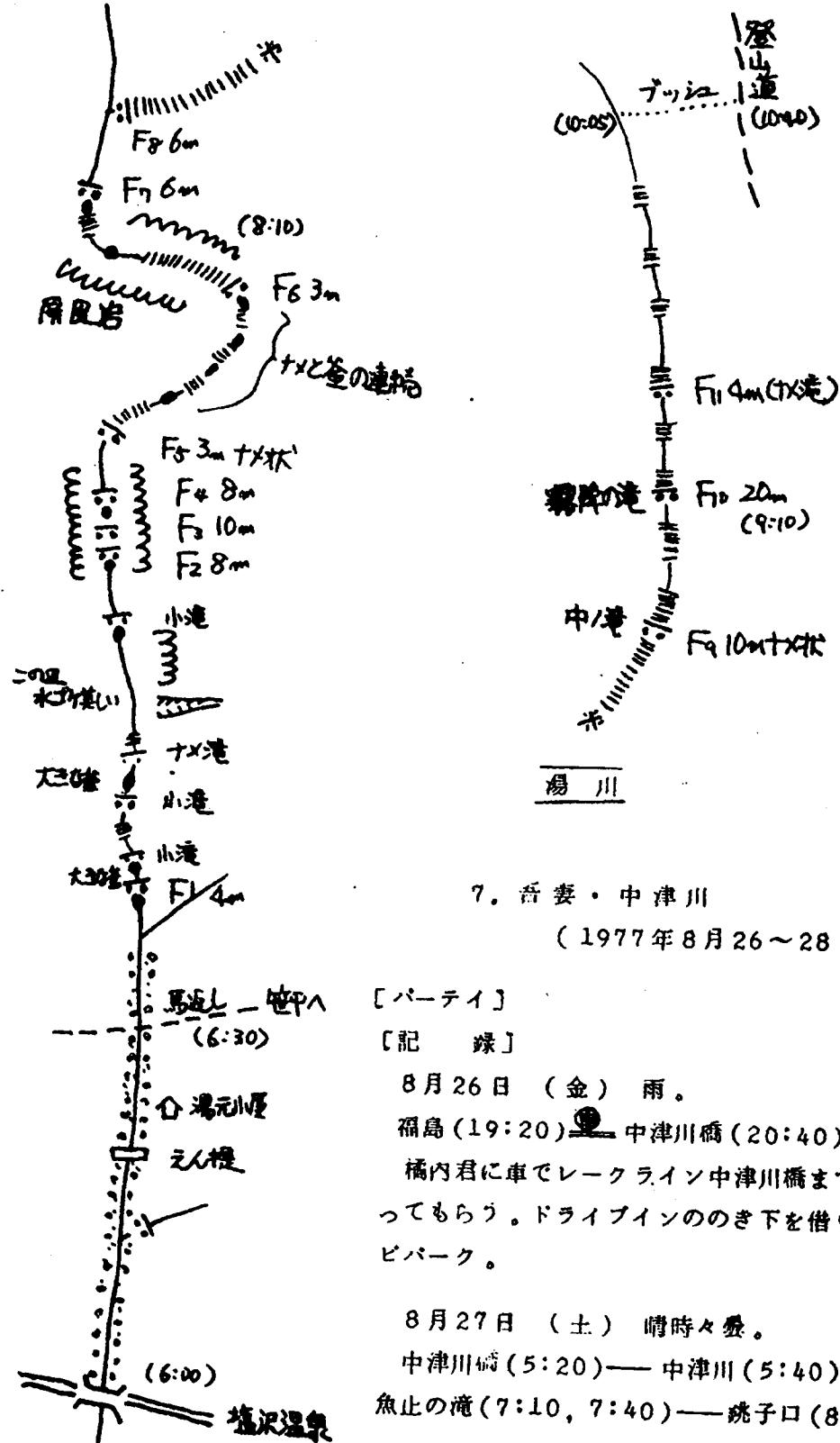
湯川

【パーティ】

【記録】

前夜、福島を車で発ち、塩沢温泉のすぐ近くにテントを設営する。朝6時に橋のところから遡行を開始する。しばらくの間は何の変哲もないゴーロが続く。えん提を越えると湯元温泉の小屋が右側に現われ、さらにゴーロの中を進むと垂平への道が横切っている馬返しにつく。大きな岩のゴーロをやや進んだあたりから沢筋はようやく感じが良くなり小滝と釜が出てくる。滝が小さい割には大きな釜があり、へづりで通過する。水ごけのきれいな所をすぎると三階の滝が現われる。一番目の大釜をもった滝は左側の水線添いを登る。二番目の滝は両岸がせばまり光もとどかない。え水勢も強く手強わそうにみえるが、右側にホールドを求めて直登できる。三番目の滝も右側を直登し三階の滝は無事終了する。この先はナメと釜が連続しており、屏風岩の下まで続いている。F11は簡単に通過しすこしゆくと、右側から八幡滝が落ち込んでおり、私達はこちらの沢に入る。しばらくの間はナメの快適な登りが続き、F13の中の滝をワラジのフリクションをきかして登り、さらにナメを進むと、湯川最大の滝である霧降りの滝につく。右側をシャワークライム気味に直登を試みたが、上部にいって草付が不安定のため右側のブッシュににげる。この先になるとほとんど滝らしい滝もなく、時々ナメが出てくる沢筋となるが、両岸から木もかぶさり快適さはなくなってくる。沢が南西に曲るあたりでブッシュに入り、40分のブッシュこぎで、僧悟台からの登山道に出る。

(



7. 番妻・中津川

(1977年8月26~28日)

[パーティ]

〔記　　録〕

8月26日 (金) 雨。

福島(19:20) 中津川橋(20:40)

橋内君に車でレークライン中津川橋まで送ってもらう。ドライブインのき下を借りてピパーク。

8月27日（土）晴時々暴。

中津川城(5:20)——中津川(5:40)——
魚止の滝(7:10, 7:40)——轟子口(8: